福井大学の特色ある取組

2018

創造力、実践力。

国立大学法人
福井大学

第3期、福井大学は新たなステージへ

国立大学法人では平成28年度から第3期中期目標期間がスタートし、
福井大学ではさらなる機能強化に向け、次のような重点的取組を掲げています。

教育・グローバル化

P2~P6

- 世界で活躍できる高度専門職業人の育成
- 地域一体型教育の推進
- 教育の国際通用性の向上
- 地域のグローバル化を牽引
- グローバル化社会において地域創生を担う人材の育成

研　究

P7~P9

- 子どものこころの発達研究
- 先端的画像医学研究
- 遠赤外領域開発・応用研究
- 原子力安全・危機管理研究

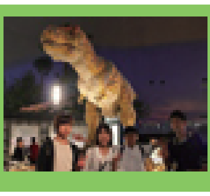
医　療

P10~P11

- 県内唯一の特定機能病院として高度急性期医療機能の強化
- 高品質で高い安全性を有する医療の提供
- 地域医療や先端的医療を担う医療人の養成

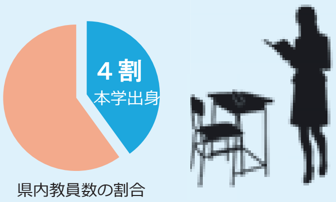
社会貢献・国際貢献

P12~P13

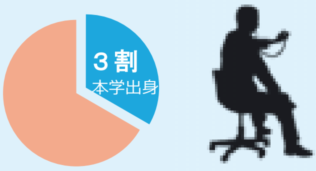


- 産業発展のためのイノベーション創出
- 地域の知の拠点としての教育研究
- 教員養成での国際貢献

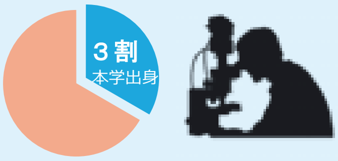
多くの卒業生が福井を支えています



県内教員数の割合



県内医師数の割合



県内エンジニア・
科学研究者数の割合

教育地域科学部（現教育学部）

－地域の次世代を育てる教員の養成－

○福井県の教員数
（小中高・特別支援学校）
７，４５８人

うち本学の卒業生数
３，０４０人

医学部

－地域医療を担う医療人の養成－

○福井県の医師数　２，００２人
うち本学の卒業生数　５７９人

○福井県の看護師・保健師・
助産師数　９，２８８人
うち本学の卒業生数　３２０人

工学部

－地域産業を創造する技術者の養成－

○福井県のエンジニア・
科学研究者　１３，７００人
うち本学の卒業生数
４，４５０人

※福井県のデータは、教：平成29年度学校基本調査、医：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：平成28年衛生行政報告例、工：平成27年国勢調査より。
福井大学卒業生のデータは、平成28年度時点の同窓会データより。（工学部は経営戦略課調べ）

実践を重視した教員の養成（教育学部・教育学研究科・連合教職開発研究科）

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

～学部教育～

ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し、「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。一緒に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」 として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。

ライフパートナー事業報告会

探求ネットワーク事業

子どもたちと共に人形劇、気球・料理作り、まちかど調査隊、FFC（障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。

探求ネットワーク事業

教育実践研究

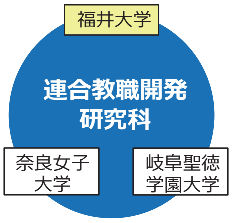
学生が４年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。

教育実践研究（教育実習）

～大学院教育～

HOT NEWS
特色ある３大学による「連合教職大学院」がスタート（平成30年4月）

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い**「学校拠点方式」**を軸とした３つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。



（学校拠点方式とは）

・学校現場が大学院

・幼小中、特別支援学校等の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に

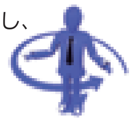
三位一体教育改革

基幹校である福井大学では、学部・大学院・附属学園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化を推進しています。

・教職大学院を附属学園に置き、附属学園を先端的教師教育研究の拠点に

・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築し、学校改革マネジメントの力量向上に

・附属学園に新たに教職大学院所属の**「研究実践者教員」**を配置



～附属学園～

義務教育学校：福井大学教育学部附属学園では、子どもの成長発達に即して、より包括的に教育活動を展開できる小学校から中学校まで一貫した「義務教育学校」を設置しています。

福井大学教育学部附属義務教育学校

幼稚園：幼児期から子どもの学びを遊びを通して組み立てていきます。週４日間、放課後の延長保育を実施し、課題別保育を実践すると共に、働く保護者の支援を行っています。

特別支援学校：充実した生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。

医学部理念　**愛と医術で人と社会を健やかに**　（医学部・医学系研究科）

真理を探究する知への愛－
人命を尊重し人間に共感する人への愛－

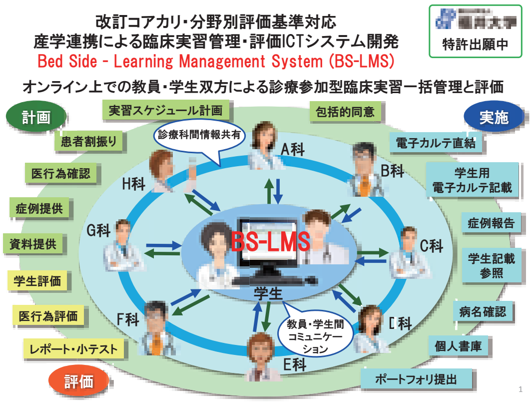
医学教育の国際標準化

医学科では、平成28年度に世界医学教育連盟が定める「医学教育のための質的保証」に準拠したモデル・コア・カリキュラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師の育成を促進しています。

国際認証評価に向けた取組

福井大学独自で開発した学生用電子カルテ・ポートフォリオ・課題提出機能・教員用評価機能を一体化したICTシステム **（Bed-Side LMS）** を整備し、有機的な臨床実習を実現するとともに、診療参加型実習の質と安全を保証します。

このシステムは、「文科省主催医学教育ワークショップ」や「日本医学教育学会」等で非常に高い評価を頂き、今後、日本全体の医学教育の向上に寄与できるものです。



革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、充分に活用できる医師を養成しています。

看護教育：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施しています。また、社会のニーズに応え、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、高度実践看護体験実習として、海外病院（英国等）での研修を選択することもできます。

バーミンガム保健大学

HOT NEWS

本学大学院修了の福井県内看護師が国内で初めて「災害看護専門看護師」に認定されました！
さらに、老年看護専門看護師教育課程が平成30年４月に新たにスタートしました。

○災害の多い日本に必要とされる卓越した災害看護実践能力を有する専門看護師の育成を目指し、平成26年度に開設した大学院修士課程「災害看護専門看護師教育課程」を修了した福井県内の看護師５名が、国内で初めて **「災害看護専門看護師」** に認定されました。この認定には、専門の修士課程修了と、５年以上の実務研修が必要であり、５名は修士課程修了後、東日本大震災や熊本地震などで実務を積みました。

演習風景

○同修士課程では、「災害看護専門看護師教育課程」、「がん看護専門看護師教育課程」に加え、新たに、老人看護分野における卓越した看護実践能力を有する専門看護師の育成を行う **「老年看護専門看護師教育課程」** を平成30年４月からスタートしました。

興味のある方は、是非ご一報ください。
【問合せ先】0776-61-8247（松岡キャンパス学務室大学院係）
0776-61-8568（医学部看護学科　事務室）

夢を描き、夢を実現する世界に羽ばたく技術者の育成
（工学部・工学研究科）

Global Imagineerの育成

工学部では、平成16年度よりImagineerの育成をという理念を掲げて教育改革を推進しています。
Imaginner = Imagine(心に描く)＋engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。技術者がこころに描くべきものの一つは、人々の暮らし。工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。人々の暮らしに想いを馳せることは、コンテキストを共有する日本人の中では比較的容易ですが、本学では、その想いを世界の人々へと拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を平成24年度より開始しています。英語教育も、コミュニケーションツールを得ることのみならず、思考の枠組みを拡張することを目指して推進しています。

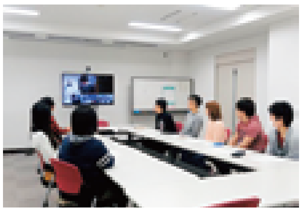
自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence（知能）については、AIが人間を越える日が近いのかもしれません。しかし、知能指数で測れるような知能と知性（intellect）は本質的に異なります。教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。

知能ロボットプロジェクト

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）や繊維系大学連携（信州大学・福井大学・京都工芸繊維大学）による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



テレビ会議システムを用いた
３大学合同コース生座談会

HOT NEWS
全国学生フォーミュラ大会にて過去最高成績

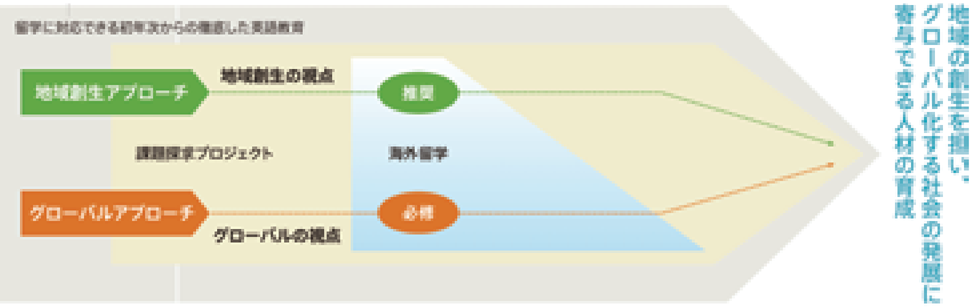
工学部が支援する学生主体プロジェクトの一つであるフォーミュラカー製作チームが、平成29年9月13日付けの福井新聞にて「福井大好走初の10位台」という見出しで、全日本学生フォーミュラ大会にて14位となったことが報道されました。

また、同大会において、平成27年にはスポーツマンシップ賞を獲得しています。本賞は、競技会という場にありながら、困難に直面している他のチームを援助した功績により得たものであり、広い視野を持ったImagineerとして、また、福井大学生として、誇らしい賞を受賞しています。

平成29年度は、クラウド・ファンディングにも挑戦して資金調達を行うなど、若い力を生かした主体的な活動を展開しており、今後の活躍が期待されます。

グローバル化する地域の発展に寄与できる人材の育成

（国際地域学部）



世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通した異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

授業風景

医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対し、その解決に向け、自然科学系の基礎的な知識や方法の助けを借りて、複合的なアプローチを図ります。

福井銀行でのヒアリング

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状や課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等の皆様へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

TOPICS
交換留学制度の充実

国際地域学部では、3年次に半年間または1年間の交換留学制度を設けており、グローバルアプローチは必修、地域創生アプローチは強く推奨としています。留学条件として、申請時までにTOEFL530点以上、累積GPA2.5以上を満たすことを求めているため、留学希望の学生はその条件をクリアするために日々勉強に励んでいます。交換留学先は、学部設置前の段階から取組をはじめ、協定締結校数50大学以上に上っており、条件を満たした学生はその中から希望大学を選択することができます。

新3年次生のうち、既に15名が平成30年1月から3月までの間で留学を開始しており、行先はマカオ、ベトナム、台湾、韓国の他に、リトアニアやルーマニア、イタリアなどです。今後、先方からの受入も本格化し、キャンパスの風景が一層国際色豊かになることでしょう。

マカオ：旧正月のセナド広場の様子

国際社会に貢献できる人材の育成（全学）

グローバル・ハブを拠点とした世界につながる取組

文京キャンパスのグローバル・ハブには、ソファーや雑誌、テレビを設置し、リラックスした雰囲気でさまざまな交流や情報収集を行うことができます。松岡キャンパスではマルチラーニングスペース等を活用してイベントを実施しています。また、海外留学経験者・外国人留学生の学生スタッフが、海外留学や英語学習をサポートします。

グローバル・ハブ

世界の人々と学び、協働する海外留学

活発な国際交流及び国際水準での教育・研究を推進し、地域の国際化及び豊かな社会づくりに貢献できる人材の育成を目指し、充実した海外留学の機会を提供しています。

短期留学

本学と学術交流協定を締結している海外の教育機関等との間で、１週間～３か月程度の「短期海外研修プログラム」を実施しています。学生一人ひとりが留学の目的や関心、外国語や専門分野の学習段階、将来設計等に合わせて適切な時期に最適なプログラムを選択して参加できるよう、多様なプログラムをレベル・内容別の６タイプに分類、体系化して提供しています。

タイ・スイーパトゥム大学

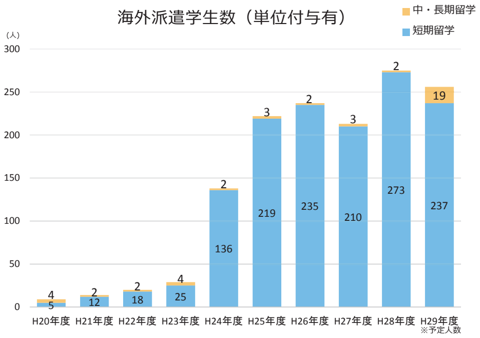
中・長期留学

主に３か月以上の比較的長い期間、海外に滞在することにより、語学力を集中的に向上させ、現地学生や世界各国からの留学生とともに専門分野の知識・技術を磨きます。本学の学術交流協定校に加え、アジア太平洋大学交流機構（UMAP）加盟大学への交換留学（半年～１年間）など、幅広い選択肢を用意しており、派遣先は今後も順次拡大していく予定です。

アメリカ・フィンドレー大学

TOPICS
海外派遣学生数の増加

○平成24年度以降、海外留学の促進に向けた短期海外研修プログラムの制度整備を進めたことにより、海外派遣学生数は大幅に伸びています。
○特定の学部・学年に限らず、全学的に海外留学が定着してきています。
○海外派遣学生の多くは短期留学者が占めていますが、交換留学を一部必修化する国際地域学部の新設や学術交流協定校の拡大に伴い、平成29年度は中・長期留学者数が大幅に増加しています。



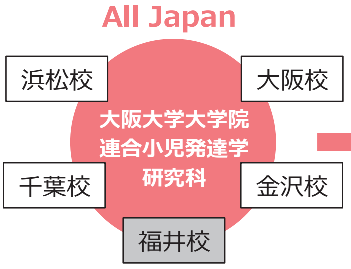
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むこころに問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の**「子どものこころの発達研究センター」**では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。**附属病院「子どものこころ診療部」**では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の５大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」**では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



現場で指導できる
専門家を養成

教育

子どものこころと脳の発達に関する高度専門家の育成

福井県内外の学校・病院・福祉施設等における発達障がい児及びその養育者支援のための高度専門家を育成

ラボ・ミーティング風景

福井大学 子どものこころの発達研究センター

研究

子どものこころ・発達障がいの研究

- 視線計測検出装置により自閉スペクトラム症者ではオキシトシン機能不全を示唆する所見を発見
- 自閉スペクトラム症の新規関連遺伝子Lrfn2/SALM1を発見
- 匂いで誘発される社会行動ではNrp2が嗅球の回路形成を規定していることを発見
- 自閉スペクトラム症の新しい治療手段の開発に着手

科研費細目別採択件数
「子ども学」ランキング１位

かおテレビ：子どもの視線を赤外線で測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する

福井大学 医学部附属病院 子どものこころ診療部

専門医育成

小児期・児童青年期のこころの専門医の育成

小児期・児童青年期のこころの専門医およびコメディカル等の人材育成のための研修プログラムを開始

「児童青年期こころの専門医育成部門」設置記者会見

医療

福井県「子どもの心の診療医養成研修事業」

県健康福祉部障害福祉課と協働で、一般診察に携わる福井県下の医師向け研修講座を実施

子どもの心の診療医養成研修講座風景

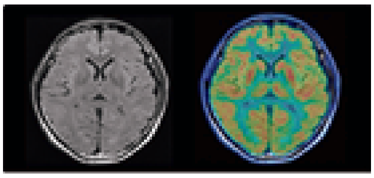
高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

　サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET/MRI）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）

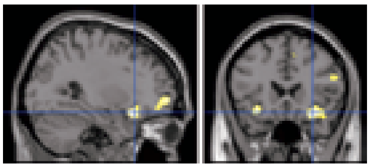
世界有数の最新型PET/MRI装置

ＰＥＴ分子イメージングの包括的研究を推進
・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
・PET/MRIを用いた診断・治療に関する臨床研究
・脳PETやMRI画像を用いた脳機能研究


PETとMRIの融合画像

画像医学研究を担う人材の育成
・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育

医工連携による産学官共同研究
・パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践


学童～思春期に年齢とともに
活動が変化する脳領域（カラー）

子どものこころの発達研究センターとの共同研究
・機能的MRI（fMRI）を用いた脳発達に関する機能画像研究

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外／テラヘルツ波分野における世界的拠点

　世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

電磁波発生装置
「ジャイロトロン」

遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究
・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発

国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築
・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
（国内外10機関との学術交流協定、国内外10機関との共同研究覚書を締結）

遠赤外技術に関する国際会議
（平成29年に福井大学で開催）

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携や周辺原子力施設を核とした研究拠点の形成をもとに、地域課題に対応できる人材育成、研究を進めるとともに、グローバルにも活躍できる人材の育成を進めています。

人材育成

・原子力に関する学部基礎教育
・原子力・エネルギー安全工学専攻での大学院生の専門教育
・国内外からの研究者・研究員の受入れ、県内の原子力施設を活用した質の高い国際的人材育成

グローバル人材育成
（学生と外国人との討論）

[これからの原子力の安全を担う基盤人材～先導する人材の育成]

◇平成28年度工学部学科構成の再編に伴い、工学部機械･システム工学科に「原子力安全工学コース」を設置しました。 平成30年度（3年次生）から敦賀キャンパスで県内の原子力関連施設を活用した実践的専門教育を実施し、学･修一貫教育を推進しています。

H28	H29	H30	H31	H32	H33
学部1年次生	学部2年次生	学部3年次生	学部4年次生	大学院1年次生	大学院2年次生
原子力安全工学コース開始	新カリキュラムの充実	**敦賀での本格的な現場教育開始**	1期生社会への輩出	学・修一貫教育の推進	新カリキュラム完了

◇原子力規制人材育成事業「官学連携による原子力規制人材育成（福井モデル）」では、福井県が国際原子力機関（IAEA）との覚書を締結し世界の原子力の安全を支える人材育成に積極的に取り組んでいることをふまえ、福井県との連携による原子力の規制に係る学生、若手行政職員育成の仕組み構築に取り組んでいます。

◇福島第一原子力発電所廃炉現場のニーズを踏まえた「廃止措置技術」、「燃料デブリ分析」、「廃炉技術開発」に関する基盤研究を実施し、その研究をベースとした３コースの人材育成カリキュラムを構築し、福島第一原子力発電所廃炉における課題解決に貢献できる高い知識と社会貢献意識を持った広い専門分野の若手人材を継続的に育成しています。

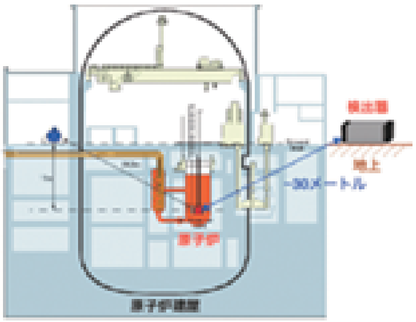
廃止措置研究・人材育成強化プログラム

研究

・福井県嶺南地域の研究機関、民間企業等との共同・協力による、実炉を対象とした原子力の基礎・基盤研究
・フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との活発な学術交流・国際的な原子力安全研究
・原子力の安全性向上、防災危機管理、廃止措置に関する研究

TOPICS
ニュートリノを用いた原子炉稼働状況の遠隔モニタリング研究

原子炉建屋の外に検出器を設置し、原子炉における核分裂由来のニュートリノを観測することで、原子炉内部を安全かつ独立にモニターすることを目指しています。素粒子であるニュートリノを原子力分野に応用するユニークな研究です。



原子炉ニュートリノモニター概要図

最高・最新の医療を安心と信頼の下で

県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。

全ての患者を受入れ
“地域医療の砦”として迅速に対応

大学病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、３６５日２４時間体制で実践しています。

★本学医学部附属病院総合診療部 林寛之教授が「平成29年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞いたしました。

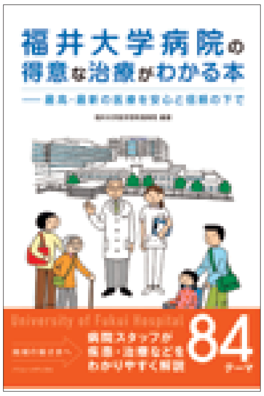
パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現

・全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
・新人看護師に対して育成チームによる支援体制

二人一組のチームで看護ケアを行う

急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する「クラウド型救急医療連携システム」の開発

福井県内の５消防本部１２救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の５病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信を可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しました。



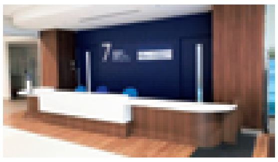
福井大学病院が得意な治療を解説した本を発刊

インターネットを中心に様々な医療情報が溢れる中、本院で行っている治療をわかりやすく解説、また、各診療部門の治療に関するサポートについても説明し、安心して治療に臨める情報を掲載しています。
平成29年8月より院内ローソンおよび県内の書店で販売中です。

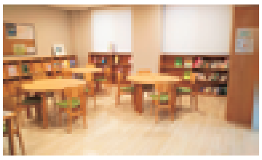
HOT NEWS
～病院再整備第５弾～

　平成29年10月、外来・中央診療棟に売店（ローソン）・薬店・理美容室やコーヒーショップ（タリーズコーヒー）などのサービス施設、患者・家族サロン「やわらぎ」がオープンしました。また、平成30年1月末には患者総合支援センターの整備が完了し、運用を開始しました。平成30年度の事業完了に向け、病院正面玄関からA棟（新病棟）への直線的な動線となる「ホスピタルストリート」等の工事を進めています。

ホスピタルストリート
イメージ図

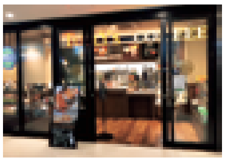


患者総合支援センター



患者・家族サロン
「やわらぎ」

売店（ローソン）



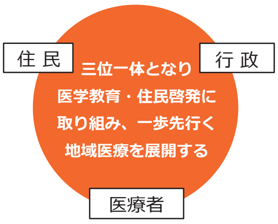
コーヒーショップ
（TULLY'S COFFEE）

地域医療の担い手の育成

地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓蒙活動
・医療システムの研究や健康動態の調査



寄附講座「認知症医学推進講座」の設置

内科学２（神経内科）分野及び精神医学分野との緊密な連携のもと、認知症全般を包括する臨床研究、基礎研究を実施。研究成果を地域医療、介護教育の現場に還元し、地域医療の人材を育成します。

「内科医のための認知症患者の対処法」
実習風景

福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
・多職種連携トレーニング
・救急対応の標準化
・県内医療従事者の生涯教育の充実

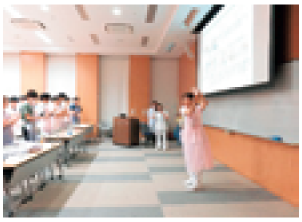
ＣＶＣ（中心静脈カテーテル）実技研修

＜平成29年度実績＞
毎月延べ約600名の医師・看護師・学生・コメディカルの方が利用
（うち学外からの利用者年間約430名）

臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育むために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



院内感染研修会の様子

HOT NEWS
福井県内で初めて ISLS（ Immediate Stroke Life Support ）コースを開催

平成30年３月、福井メディカルシミュレーションセンターにおいて、医師・看護師・コメディカル・救急隊員を対象とした、福井県内では、初めての開催となる第１回福井ISLSコースを実施しました。

このコースは、脳卒中の初期診療や、急変時の対応など脳卒中の救急初期診療のエッセンスの習得を目的としており、定員24名のところ30名を越す応募があり、医療従事者の方の関心の高さが伺われました。

実技演習の様子

産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働！

「ふくい産学官共同研究拠点」
燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

先端機器を利用したｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ

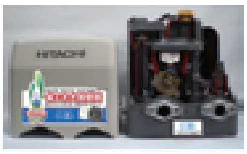
「オープンR&Dファシリティ」
学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求方の研究開発を推進

最先端計測機器

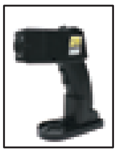
イメージを「見える化」する試作！

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」
大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ


油管理計

「知」の創出を支援する専門人材！

「URA（リサーチアドミニストレーター）」
研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを行い、大学における研究の卓越性を探究します。平成２９年２月からＵＲＡ機能を産学官連携本部に統合し、研究成果の社会還元推進を強化しました。

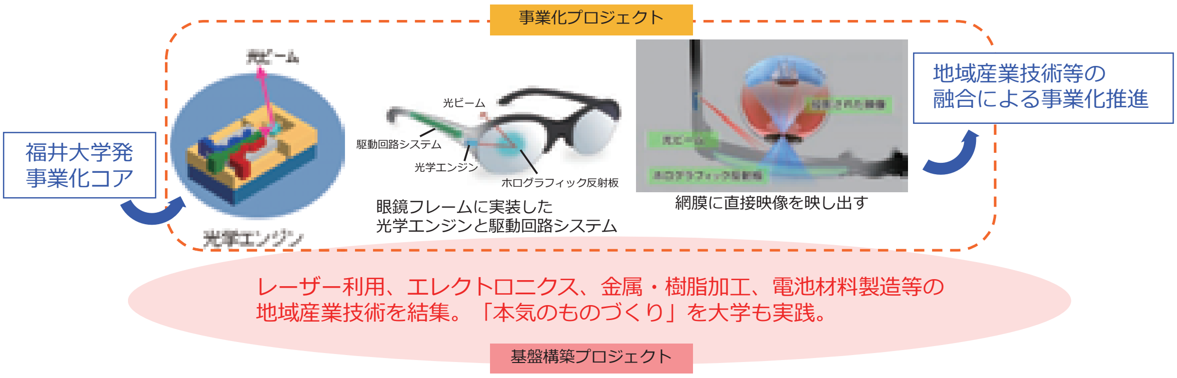
URA主催によるワークショップ

TOPICS

挑戦！「稼ぐ力」を大学に！

「ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出」
※地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省　平成29～33年度）

光の制御技術をコアとして、光学エンジンの高効率合波特性と小型化の両立を実現し、ワンチップ化した超小型光学エンジン事業と革新的オプト産業の創出を図ります。さらに福井地域の有する多様なリソースの活用と、産学官金の連携により、超小型光学エンジンの用途展開、事業化を推進します。



COCからCOC＋へ　～その中で目指す地域創生～

COC事業：地（知）の拠点整備事業（平成25～29年度実施）

平成25年度から、県内自治体の地域課題である重点５分野に戦略的に取り組むとともに、地域での実践力と創造力を有する学生を育成するため、教育カリキュラム等の改革を行い、全学を挙げて「福井の地（知）の拠点づくり」を進めてきました。

目標達成！

- 共通教育における地域コア・カリキュラムの体系化を図り、より地域を志向した内容に充実させるとともに、地域の抱える現実的な課題について学生が主体的に学ぶ学修（アクティブ・ラーニング）を自治体や産業界等と連携・協働し展開することで、学生の学びに貢献しました。
- 福井県および県内の9市・3町と連携協定を締結し、連携事業を進めることで、地域の課題解決に繋がる成果を挙げました。

COC+事業：地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（平成27～31年度実施）

平成27年度からは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の責任大学として、県内の４年制大学（参加大学：福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学、協力大学：福井医療大学）と、福井県ならびに地域の産業界等と一体になって、地域志向教育の充実、地域で活躍できる人材の育成、産業の創出、地域課題の解決など様々な取組みにより、地域の持続的発展に貢献するとともに、学生の地元定着率の向上を目指しています。
＜到達目標：学卒者の地元就職率の10%向上、雇用創出85名＞

約1500人の学生が履修しています

サテライトキャンパス（Fスクエア）で地域を知るための講義を共同開講

恐竜学でのフィールドワーク

平成29年度、初の「ふくい地域創生士」として50名が認定されました！

※「ふくい地域創生士」とは、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。
※「ふくい地域創生士」は、福井大学の商標登録です。

国際貢献

国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、**「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開**します。
平成29年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官など、アフリカ7カ国から13名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援しました。

開講式の様子

アフガニスタンの国づくりを担う人材育成への貢献

平成29年12月、JICA青年研修「アフガニスタン初中等教育行政コース」を受講する同国の若手教師ら17名が来日しました。
文部科学省や福井県教育委員会等で初等中等教育行政の概要に関する研修等を受けた後、本学の教育学部を訪れた受講者に対し、早い時期から子どもと触れあいながら学びを進めることの大切さ等、本学の教員養成の手法を紹介することで、アフガニスタンの人材育成に貢献しました。

JICA青年研修の若手教師等

就職率10連覇

教育地域科学部	医学部	工学部
97.0%	94.8%	97.6%

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2017」において、本学は複数学部を有する国立大学において10年連続1位となりました。

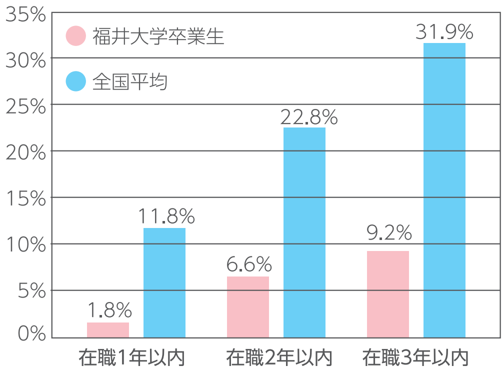
低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.2%）は全国平均（31.9%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

実就職率ランキング　複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2017	福井大	97.4	九州工大	95.5	電気通信大	94.8
2016	福井大	96.8	九州工大	95.8	電気通信大	95.3
2015	福井大	96.1	名古屋工大	94.1	群馬大	94.0
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	長岡技科大	95.9	九州工大	95.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋技科大	91.9

※実就職率＝就職者数÷（卒業者数ー進学者数）



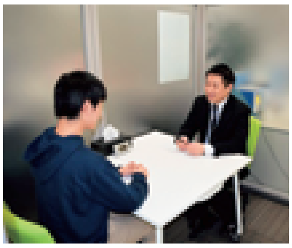
参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート2016（平成27年11月実施）及び「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移（厚生労働省HP）」

福井大学が就職に強い３つの理由

積極的なキャリア形成支援
- 地域と密着した人間力育成事業の実施
- 日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
- 夢をかたちにする技術者育成の徹底

学生を支える充実した就職支援体制
- 就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- 本学独自のキャリアサポートシステムの運用
- 就職活動の拠点サテライトキャンパスの設置

きめ細かな就職支援活動の実施
- 充実した就職ガイダンスの開講
  OB・OGとの懇談会、学内合同・個別企業説明会の開催等



キャリアカウンセラーによる就職相談

毎週開講される就職ガイダンス

学内合同企業説明会

TOPICS
カケるプロジェクト

ライブチャットを活用したイベントを企画し、社会人と学生が気軽に交流しあえる場を提供するなど、遊びの要素から就職活動に必要なスキルを習得できるよう支援。

- 学外で行う地元密着交流企画
- 学内で行う双方向トークイベント

KAKERU PROJECT

本学の教育力は高評価を得ています

THE世界大学ランキング日本版2017で
・総合ランキング **42**位
・教育リソース分野ランキング **30**位
・教員一人あたりの競争的資金の獲得数ランキング **27**位
（※データ提出のあった435校中の順位）

世界三大ランキングのひとつとされる、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）を運営するTES Global社が作る「THE世界大学ランキング」の日本版が平成29年3月に初めて発表されました。教育力に焦点を当てた日本版ランキングとなっています。本ランキングは、世界の大学進学・留学希望者の大学選びに活用されています。

THE世界大学ランキング日本版HP
https://japanuniversityrankings.jp/

福井大学基金 ～ご支援・ご協力のお願い～

福井大学基金では、経済的な理由により修学が困難な学生等への修学支援を目的とし、募金活動を行っております。
皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
（クレジットカード決済でのお申込も可能です。）

「古本募金」のご協力もよろしくお願いいたします。

古本募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。
（送料等のご負担はございません）

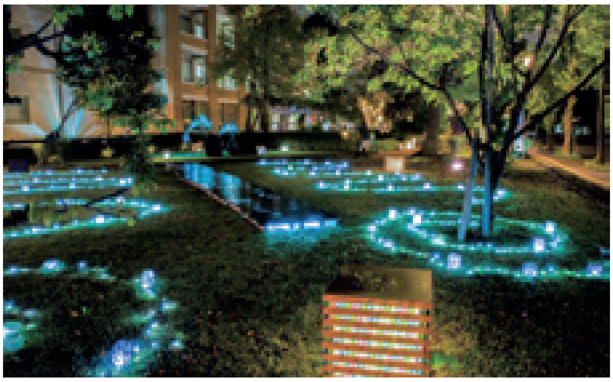
※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。
HP https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/

研究者検索をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや論文検索もできます。是非ご活用ください。

HP http://t-profile.ad.u-fukui.ac.jp/search/index.html

灯りで心に感動を ～キャンパスイルミネーション～



学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取り組みが行われています。

★開催時期
【松岡キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬
【文京キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬
★詳細はHPでご確認ください
https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/

福井大学の特色ある取組2018

発　行　福井大学総合戦略部門経営戦略課
発行日　平成30年4月1日

大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

福井大学広報センター
〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1　TEL:0776-27-9733　FAX:0776-27-8518
Mail: koho@ad.u-fukui.ac.jp　HP: https://www.u-fukui.ac.jp/